

川乗之卷

全

和装本

ケ 5

44

65





大坪本流川乘之卷

春生軒齊藤定易撰

川水ヲ知ル事川乘ハ專用也縦ハ彌生曰

重陽中旬末マテハ何レノ川モ水蓋増

比者也就中雪解比隆ツユリ隧粟花ノ比白露ノ

比ハ一入水強キ者也陽無月ヨリ夜更着

中旬マテハ必ス水蓋少キト知ルヘシ

大川ナレ共小川ニ同シキ河アリ水ノ幅

高

高

幅

大廣ケレ共淺キ所アリ又小河ナレ共大
河ノ如ク成河アリ水ノ幅ハ狭^狭ケレ且深
キ所アリ凡川ト云物ハ地形ノ^リキ所ハ
水ツホミテ落ル故必ス其所ハ瀨ト早キ
者也瀨早キ故土ヲ堀穿ニ依テ河モ深ニ
其下ニ至テ廣キ所ハ地形高キ物ノ上ヨ
リ流ニ來ル土其所ニ淀故自然ト其地高
ク成ヘシ地高キ故ニ水ハ已ト流レ豊也

ケ様ノ所ハ大河ト云凡渡ニ安キ者也
川ヲ渡ス時ハ鞍堅メアリ遊ノ繩ヲ前輪
ハ左右ノ^ハニ通シ夫ヨリ上帯ノ罐ヲ通
シテ後ノ鞍ヲ又通シテ其末ヲ足ノ大指
ノ間ニ鑿ト共ニ踏^踏也永幸ノ曰遊繩ヲ持
サル人ハ鞅ノ餘リヲ左右トモニ一ツニ
所後輪ノ鞅口ヲ引通シ前ニテ入違其入
違タル所ヲ左ノ手ニシカト握リ手綱ト

一ツニ所也又息通ヨリ三尺計ナル緒ヲ
出シテ前ニテ上帶ニ下ヨリ上へ引通シ
ソ口結ニシテ其末ヲ手綱ニ持添ルモ吉
障泥ハ卷へシ燈ハ外燈ヲ可トス勿論
五六ヲ用毋衣付ノ穴へ細縄ヲ付靴ニシ
カト結付へシ就中早川渡スニ可也亦
廣秀ノ言ヘルハ河水ニヨリテ河下ノ燈
計ヲ結付テ川上ハ其俵置テモアリ障

泥モ卷上スシテ捨障泥ニスル丁モアリ
口傳猪馬ヲ乗入ル時ハ如何ニモ閉カニ
乗入へシ淺ク内ハ眞ノ鞍ニ乗居テ可
上ノ手綱ヲ馬ノ平首ニ添スシテ退テ引
張り河下ノ手綱ヲ平首ニ添テ同河下
ノ燈ヲ一文字ニ踏出シ河上ノ燈ハ少シ
踏流シテ開キ渡スへシ又國忠ノ云へル
ハ河上ノ燈ヲ馬ノ前足臂懸リへ踏添テ

吾水前足ヲ過テ流ル、故ニ前足能遺フ
ト云ヘリ次第ニ馬深ニ行時ハ浮上リ
艦足計ニテ此立行者也或立倒ル、了モ
アリ或繁リ揚ル了モアリ其時大概ノ
乘人鞍離ル者也其節ハ馬ニ添テ河下ノ
手綱ヲ下ケ拍ヘワロト會釈嚏色ヲ
以テ馬ニ勢ヲ付ヘシ艦凡離ル、時馬沉
ム莫アリ鞍ノ乘移リ手綱ノ引合燈ノ踏

付鞭ノ打掛大莫アリ夫ヨリ浮クニ隨テ
泳キ出ル物也其時鞍ノ三双ニ手綱ヲ左
ノ手ニ取テ取髪ニ持添揺掛々々泳スヘ
シ馬急ム時ハ色鞭ヲ以テ誘立楮乗上レ
所ニ目ヲ着テ上ヘシ條々口傳
大河ヲ渡ス時ハ我馬弱キ時ハ河ノ一二
町モ前ヨリ何トナク河下ノ方へ乗下テ
河ノ端へ參ヘシ然ル時ハ諸勢ノ渡ス下

ヲ渡ス其安シ其河端ニテ乘行テ俄ニ諸
勢ノ下ヘ渡サントスル其必ス叶フヘカ
ラスシテ然モ武者形悪カレヘシ我若シ
水ニモ練磨シ馬モ逸物ナラハ又諸兵ノ
上ニ乗登ツテ渡ス時ハ武者形一際伊美
シカルヘシ昔佐々木梶原宇治川ヲ渡シ
武切リ末代ノ人口ニ残ス其モ勇敢人ニ
勝レ水練磨シ馬達者ニシテ生食磨墨ノ

速物ノ名馬ニ乗タル故也依テ川乘之先
駟ヲ競フ其ハ人馬ノ徳等シカラスニ
在ヘカラス故ニ一騎渡シテ大隻トスル
ナリ
石川之事地形ノ嶮岨ナル所或大山ノ下
ハ必ス石川ナレ者也夫ニテモ岩ナラス
地ハ大石ナキト知ルヘシ縦大川ニシテ
大石ノ流ル所モ一面ニハ流レカレ者

也瀬在故ニ又右ノ流ル、所モ大概知レ
ル者也其時ハ馬ノ双リ高ク切上ケ片手
綱ニ所テ所髪ニ持添左ニ鞭ヲ以テ追立
四足淀間十ク踏付リ正シキヤウニ渡ス
ヘシ勿論嚏色ニ大変アリ鞍下弱ク鐙
ノ踏付息敷テハ倒レ、者也自然左様ノ
節ハ馬ト分ル、ヤウニスル、ノ專也口傳
濁リ川之変凡此河ハ常ハ淺キト知レ

シ然共悪ノ外ニ淵杯ハ乗入レ変在ハ馬
一旦ハ先沉ム者也其節泳キ上テ人十
ラハ鞍離テテ可也馬ハ自然ト浮キ上レ
物也其時馬ヲ前ニ立我ハ後ヨリ鞭色ヲ
以テ泳カセ淺ニニナリテ鞍ニ乗入レ少
シ騒ク氣在ハ怪我在者也口傳
早川之変大概前ニ記ス如シ河上ノ鐙ヲ
立河下ノ鐙ヲ卧テ踏ハシ鐙ノ母衣付ノ

穴ニ細緒ヲ付鞅^鞅ニ結付也勿論外鐙ヲ用鞅
ノ純合手綱ノ引免之鞭色ノ勢專一也唯
足ヲ淀サレヤウニシテ馬ヲ直達テ泳^泳ス
ヘシ河中ニテ自然馬ヲ引返サハ河下ノ
方ヘ引廻スヘシ
勝レテ深キ河ノ夏此河ヲ渡ス時ハ手綱
ニカヲ入左曲右曲ノ繪^繪叙ヲ以テ揺掛ケ
々泳^泳スヘシ是モ外ノ鐙ヲ可トス斬寸法

半四寸ヲ用又鐙ヲ踏スニテ馬ノ皮腹ヲ
梓^梓ニテ渡ス夏モ在口傳
早川ニシテ然モ渡リナキ所ヲ諸勢越ニ
ハ先水練ノ者ニ繩ヲ張セテ可也歩兵者
河上騎兵者河下ヲ渡スヘシ口傳
河渡シニ馬筏ヲ組夏敷足ヲ並ヘテ長キ
竹ヲ前輪ニ渡シ鞅ニシカリ結付テ入渡
スヘシ弱キ馬モ強馬ニ行テ渡ル者也或

靴ヲ取組テ渡ス莫ク吉

大河小河早河或深キ河淺キ河其外何レ

ハ河ヲ渡ス時モ強馬ヲ先ニ立弱馬ヲ後

ニスル莫ハ川乘ノ要法也馬ノ足及程ハ

手細ヲ繰テ歩セヘシ馬自然登ツハ皆繰

テ泳^泳テヨシ弱馬猶モ水ニ溺レテ進^進カ

子ハ鉞ニ取付セ或弓ノ梢ニ取付セ午ニ

午^午組肩^肩ヲ並ヘ嚙^嚙色ヲ懸テ互ニカヲ合

テ渡スヘシ馬ノ頭沈ム時引止ヘシ強

ク餘リニ引ハ引^倒ス莫^倒ア靴坪ニ能乘

定メテ鐙ヲ強ク踏ムヘシ水ニ下^下ハ三

頭ノ上ニ乘懸テ可也河中ニテ弓引ヘカ

ラス歎射トモ相引スル莫^傾十カ^傾ニ鍛ヲ傾^傾

ヲ真黒ニ渡スヘシ餘リニ傾テテハ甲ノ

手及ニ矢鉄炮ノ當リアリ馬ニ弱ク水

ニハ強ク當ルヘシ一文字ニ渡セハ推落

ナル、夏アリ水ニシテテ渡スヘシ是
又馬筏ノ秘術ト知ルヘシ昔田原忠綱島
山重忠等此傳ヲ知テ宇治川ヲ渡ス者也
條々口傳
川ヲ渡ス時ハ小手踏込ヲハ外ニタレ吉
草摺ハ結上ヘシ馬ノ尾十トニ取付武者
シハ赤拂ヘシ又下人ヲ召連渡ス時ハ綱
手ヲ使テ取スヘシ弓弭石突十トヲ使テ

取タル夏大勢ノ時ハ用捨アリ
朝露ノ間ニ河ヲ渡ス時馬アヤフニテ渡
リカ子ハ先ス歩行武者ヲ前ニ立テ其勢
トニ連テ後ヨリ馬ヲ渡スヘシ口傳
寒天ニ河ヲ渡ス時ハ先ス水ヲ一口吞テ
其後渡スヘシ
汗強ク流シタル馬ヲ其傍川へ乗込渡ス
時ハ必ス死スル物也先ス川水ヲ以テ口

引流之双引人之手其後來込渡スヘシ

捨馬之大夏 口傳

捨障泥之夏 口傳

浮沓之夏 口傳

鑣付藥之夏 口傳

大刀刀指様之夏 口傳

鉾持テ越様之夏 口傳

弓持テ越様之夏 口傳

母衣武者川越任懸之夏 口傳

河以渡之テ款ニ付様之夏 口傳

夜河之大夏 昔佐々木三郎此傳ヲ習テ藤戸ヲ渡スト云 口傳

右之條目ハ奥秘之術ナル故ニ細説ヲ

略スル者也

天下ニ三ツノ大河之夏奥州ニ利根川山

州ニ宇治川濃州ニ甲都川ヲ云也

川幅ヲ知ル夏 口傳

水ノ出ル川ヲ知ル也 口傳

水ノ流ル地形ニヨリテ淺ニ深ニ知

ル也

川堀ノ淺キ深キヲ知ル也 川ハ水色白キ

ハ淺キ瀬也 堀ハ草浮ク所ハ必ス淺

キト知ル也

水底ニ岩石アルヲ知ル也 附勝レテ深

アルヲ知ル也 口傳

地形ニ依テ知ル也 口傳

水ノ面ヲ見テ渡ル瀬ヲ知ル也 水波立

シテ音ナク巻返ス波在ハ水深ニ行然モ

近遍ニ渡リノ瀬ナキト知ル也 又水波

高クシテ音高クウ子リメ重ク在ハ近遍

ニ渡ル瀬在ト知ル也 又岩ナト在故水

ニ逆フニ依テウ子リメ在テ然モ音スル

者セ其ウ子リメヲ渡リテ見ルニ必ス淺キ

者也條々口傳

雨ノ降出シテ以テ河水ヲ知ル夏

子辰申但ニ此時降出廿八大雨

丑巳酉但ニ此時降出廿八早魃

寅午戌但ニ此時降出廿八雨中

卯未亥但ニ此時降出廿八半時

右之線合リ以テ能ク勅ヘ諸兵ノ煩ナキ

様ヲ引越ヘキ者也

海ヲ渡ル時鹽時ヲ察ル夏海乘ノ要

法也

上十日

中十日

下十日

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九
七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八
六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七
五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六
四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五
三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四
二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三
一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二
〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一

右之塩時ヲ勅ヘ或月ノ出入時必ク塩

満ルト知ルヘシ又ハ桑着ル所ノ海里ヲ

計り浦ノ案内知タル者ヲ求テ淺瀬ヲ知
テ引塩ニ馬ヲ折入渡スヘシ大概川乘ニ
替ル夏十ニ口傳

遠海ハ馬渡ル夏十ニ然共其海ヲ渡サシ
ハ歌ニ向フ夏叶ナル時ノ船ニテ渡ス也
歌出張ニテ渚ニ折ヘ矢此ニ懸ニトスル
時ハ渚二三町前ヨリ船ニ乘傾ケ馬追下
シ其舟船ニ引付々々沫沫セヘシ馬ノ足直

鞍凡乾タル程ニナリ夕方ハ直々ト折乘
ヲ直黒ニナリテ渡スヘシ九郎義經此術
ヲ用テ勝浦ニテ大利ヲ得至フト云

川渡ス時ハ河跡セシ夏十ニ懸ヘシ若シ
左様ノ時ハ急キ耳ハ鞭十則トニ指ナリ
トニ深々ト指入ヘシ必ズ馬浮上リ沫ク
者也

沼渡ニハ深田ト同夏也第一馬ノ落入夕

ヤウニ乗夏専也沼際へ馬ヲ立テ其所ヲ
能々見ヨテ後へ引返シ翔足ヲ出サセ其
勢ヲ以テ乗入ヘシ鞍ハ草少鞍ニ乗居テ
手綱ハ常ノ如ク取テ馬ノ頭ヲ引立上ロ
テ會叙露拂ノ鞭ヲ折テ大趨ニ渡スヘシ
淀ム心乗人ト少モ在ハ足入り越カスル
者セカレトモ前足サへ扱ヘハ後足ハ可
ノ踏込ス物リ前膝過後足ノ為ス隠レ

程程

深池ヲ飛スル夏身ヲ輕ク乗テフ心ヲ爲テ
馬足ヲ早ク追フヤウニ乗ヘシ手綱ハ張
合弱ケレト馬カタクシテ働スサノニ強
クシテモ行ス口ニ依テ引詰手綱ニ懸リ
馬カ在ヤウニ乗也但ニ下俾ノ馬及難シ
深池沼ノ深ミヤトハ馬自然ニ落入後ヘモ
前ヘモ行ナル時ハ羈ヲ以テ轡ヲヒシト

割付手綱ヲ片手綱ニ持片手ニテハ鞆ノ
結際へ鞆ノ餘リヲ兩方共ニ引通シテ持
引上ヘシ大連キタラハ尾ヲ持セ引上サ
セヘシ
堀ヲ越シハ堀際ニ馬ヲ立越所ヲ馬ニ能
ク見セ後へ引返シ翔足ヲ出シテ越物際
ニテ鞆ニ當リ嚏色ヲ懸馬ニ勢ヲ持セ捨
鞭キテ越スヘシ

藥研堀之丈大概右同斷也先馬ヲ直ニ乘
下シ水際二三尺手前ヨリ横足ニ乗入ヘ
シ然其滑ル地形ナラハ真直ニ乗下シ夕
可也勿論向へ乗上ル時ハ直遣テ上ヘシ
若シ岸下一文字ニ崩シテ乗上難クハ早
ク鞍立テ岸へ飛上リ手綱ヲ取テ馬ヲ引
上ヘシ
堀際ヲ乘通ス莫堀ノ方へ馬ノ頭ヲ拘御

ヒキムテ

々々乗通スヘシ勿論乘人ニ堀ニ目ヨ著
足立ヨ勤ヘテ可也

河堀ニハ必ス水底ニ縄ヲ張り人馬越難
キヤウニ敵方ヨリスル莫アリ縄ヲ付タ
ル杭在ヘシ水練シ者ニ拔セテ其後渡ス

ヘシ

下

無敵

